



大 島

—せいしょう君だより—



大島 —せいしょう君だより— 第 5 号の内容

庵治第二小学校休校に寄せて	・・・・・・・・・・	2
大島ジオラマ制作プロジェクト	・・・・・・・・・・	3
みんなが笑顔になれるレクリエーションを目指して	・・・・・・・・・・	4
平成 29 年度 看護課の取り組み・看護研究発表を終えて	・・・・・・・・	5
平成 30 年度 転入者・新採用者紹介	・・・・・・・・	6~7

国立療養所大島青松園の理念

私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。

基本方針

1. 入所者の権利と人格を尊重します。
2. 信頼される医療・看護・介護をめざします。
3. 職員の教育・研修に努めます。
4. ハンセン病の啓発に努めます。

庵治第二小学校休校に寄せて

2-2 センター 介護員 河野智恵

私が大島に来たとき、庵治第二小学校には10名ほどの子供たちが通っていたのを記憶しています。あれから17年、自分の子供が卒業すると休校、という事は当時の私では考えもつかないものでした。離島かつ療養所内の小学校、というものは初めて目にするもので、小学校が存在するのか、という驚きをおぼえたのを今では懐かしく思います。



私自身は「なぜ子供を庵治第二小学校に通わせるようになったのか」と聞かれることが多いものの、実のところそれほど深い理由もなく「先輩方のお子さんも通っているし……」と、流されるままにその状況になっただけでした。しかし、大島青松園に勤めるうち、入所者は子供が生みたくても生むことが許されなかった、という過去を学ぶこととなり、人権学習や地域の歴史など、全く考えていなかった自分の安易さを反省するばかりでした。



けれども、歴史ある庵治第二小学校では、先生方もごくごく自然体でそういった問題も学習に取り入れていくあり方をみて、私は只々感嘆していました。また、学習と交流に携わってくれた入所者の皆さん、地域の皆さん、そして青松園の職員の協力もあり、この学校に通った子供たちはこれから人生を送るうえで、かけがえのないものを得ることが出来たのではないかと私は感じました。

卒業式、休校式が終わり、庵治第二小学校の玄関で担任の先生と一緒に記念撮影。あれだけ小学生の声が元気に聞こえてきた学び舎も、これから無人になり、荒れ果てていってしまうのかと、寂しい思いでそのことを子供に言うと「お父さん、閉校じゃなくて休校！」とあきれ返った顔で抗議されました。私は「ああ、ああ、そうか、そうだった」と顔を赤くして返すのがせいっぱいで、父親である私が思うよりも子供はしっかりと育ったようです。そんな子供に対して、よく考えずに余計なことをしゃべる私自身の癖は全く治りません。

かつて庵治第二小学校に通った子供たちが、ときおり大島に立ち寄り、成長したその姿を入所者に見せ、ある子はぶっきらぼうに、ある子は嬉しそうに、またある子は、少し恥ずかしそうに、今の自分の様子を伝えている姿があります。よくある、祖父母のいる田舎に立ち寄った孫の姿ではないでしょうか。この光景を受け継いでいけるように力を尽くすのが私のこれからの勉強と宿題だと思っています。



大島ジオラマ制作プロジェクト

-大島の昔の暮らしを聞こう ワークショップ-

看護師長 新上 仁美

平成 30 年 2 月 10 日、11 日の 2 日間、高松市主催で昭和 30 年代前半の古い写真を見ながら、入所者の方々に当時の暮らしを思い出しながら語って頂く、ワークショップが社会交流会館多目的ホールで行われました。この企画は、大島のジオラマを制作し社会交流会館に展示の一つになります。

私は、大島で勤務する者として参加される入所者の側で、入所者の物語を聞いておきたいとの思いがあり、瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーターの方に参加の希望を伝え、11 日のワークショップを見学しました。当日、参加協力された入所者さんは 3 名で、入所者 1 名と 6～7 名の一般の参加者が 1 グループとなり、合計 3 グループで参加者が入所者に質問する形式で行われました。参加者された方は、公募で申し込まれ香川県以外の方が参加されていました。

グループ単位で座談会を行い、入所者のお話を興味深く質問形式でお聞きして、ノートや付箋にメモをして記録を行っていました。また、多目的ホールの四方の壁に古い写真を貼り、写真を見ながら当時を思い出して入所者が語られた内容をエピソードとして付箋に書いて写真に貼る作業も行っていました。写真に写った場所がどこなのか、写真から想起するエピソードはどこであった出来事かを大島の模型に旗を立てることで明確にする作業も行われていました。

私は、大島を愛してくださる瀬戸内国際芸術祭実行委員会の方が、ジオラマ制作を目的に丁寧に準備されたワークショップだと感じました。昭和 30 年代の写真は残っている枚数が少なく、多目的ホールにある写真も白黒写真のため、ジオラマ制作には実際の建造物の色も入所者に聞いて再現していく作業も必要です。「この建物は何色ですか？色が重要なんです。」と入所者に説明しながら聞き取りを行い、色に関する語りがあると、とても喜んでいる様子が印象的でした。このように多くの方々が、大島での入所者の暮らしや思い出を、ジオラマと言う誰もが感じ取れる形にして、後世に伝えたいと活動してくださると思うと感慨深く思います。入所者の方の物語を残すために私たちも大島の職員として何ができるのか、改めて考えたいと思っています。



みんなが笑顔になれるレクリエーションを目指して

病棟・治療棟 介護員 恵美穂子



私が、生き生き支援チームのメンバーとしてレクリエーション活動に参加させてもらうようになり 3 年目に突入しました。1 年目は既存のレクリエーションの手伝いがメインでしたが年々行事も増え、昨年度から生活環境改善チームと協力で行うレクリエーションもあり入所者の方に喜んでもらえていると思います。

今年になってからも、生き生き支援チームと病棟のコラボレーションでカフェを開

催、新春カラオケ大会、病棟のホールに七段のひな飾りを展示しての雛祭り会、4 月には多目的広場を利用して皆で集まり、食事やカラオケを楽しんでのお花見も行いました。

3 月からは病棟のホールの名称を「なごみホール」と改名され、週 2 回午前と午後「なごみカフェ」が実施されるようになりました。最初は、カフェに参加される入所者も少人数でしたが回を重ねるごとに増えて行き、午後からは毎回トランプやレクリエーションを楽しみに参加されている入所者の方もおられます。また、4 月からは第 2 木曜日は笑いヨガも実施しています。まだ始まったばかりで、関わっているスタッフも試行錯誤しながらの状態ですが入所者の方に喜んでもらえるよう頑張っています。

私自身、生き生き支援チームに参加する以前にも園のクリスマス会や部署内のレクリエーションに関わる機会がありました。しかし、生き生き支援チームで関わるようになってから、以前にも増してレクリエーション活動に興味がわき「レクリエーション介護士」と「笑いヨガ」を学習する機会を得ました。

その経験を経て、レクリエーションの必要性や行う立場での心構えが認識できたと思います。今までは自分の目線で、この方は手が不自由だからできないなど決めつけていましたが、その方が「やってみたい。」と願えばどうすれば叶えてあげられるか考え支援していくことが大事であり、一緒に行う私が楽しんで行わなければ相手も楽しめないのだと思いました。「レクリエーション介護士講座」受講時の講師の「自分が楽しんで行えない時は、他の人にな変わってもらってでも自分はしないことです。」の言葉が心に残っています。

入所者が高齢になってきた現在、入所者の方が「生きる喜び」や「楽しみ」を見出すための支援をしていく必要があります、それができるのは普段日常生活に関わっている私たち職員だと思います。レクリエーションの必要性や楽しさをまだ十分に伝えられていないのかなと思うこともありますが、入所者に楽しく笑顔の絶えない日常生活を過ごしてもらえるように、入所者の方・職員みんながレクリエーションを一緒に楽しんで行けたらと思います。



平成 29 年度 看護課の取り組み・看護研究発表を終えて

教育担当看護師長 藤川美恵

平成 29 年度に各部署で取り組んだ看護・介護実践の取り組み発表会を開催しました。

「認知症・高齢者看護取り組み発表」では、認知症・高齢者看護研修を受け、その中で学んだ知識を実践で応用し、入所者の特性も考慮した取り組みを発表しました。

「気づきの発表」では日頃の生活援助のなかで、介護員の目線で気づいたことから取り組んだことをまとめて発表しました。

そのうちの一つを紹介します。94 歳の A 氏はベッドで寝たきりの生活を送っています。園内の行事にもほとんど参加せず、部屋に閉じこもった状態でした。夫の希望でもある夫婦そろっての園外への外出を目標に、まず部屋の外に出ることへの介入を始めました。日課に散歩を取り入れ、鳩にエサをやるうちにいつも鳩が集まってくるようになり、それがきっかけで毎日の散歩が楽しみとなりました。表情がよくなり、笑顔や会話も増えました。外へ出ていくことに自信がつき、意欲も出て A 氏の誕生日に夫婦揃って外出し、食事をして誕生日のお祝いことができました。入所者に心豊かに生活して頂くためにどう関わって行けばよいかをスタッフで考え、介護員が中心となり散歩を業務の中に取り入れたことから実現できた事例の発表でした。どの部署も入所者が生き生きと生活できることを目標に、入所者の方に合わせ試行錯誤しながら取り組んだ過程をわかりやすくプレゼンテーションしました。「気づきの発表」で発表したものは 7 月に毎年開催されている長島愛生園、邑久光明園、大島青松園参加の「瀬戸内集談会」で発表する予定です。

また「看護研究発表」では、ハンセン病療養所で生きがい支援を実施するにあたり、スタッフや入所者の思いを明らかにし、これまでに行ってきた生きがい支援を評価したことの発表がありました。当園看護課の理念に「心情を理解する」とあります。今回の発表では入所者の方の背景や特徴を理解することで、更に質の良い看護・介護が提供できるようになる事が再認識できる機会になりました。発表後の質疑・応答では活発な意見交換ができ、今後の看護・介護のヒントになることが多くありました。現在、入所者は 56 名、平均年齢は 84.1 歳になっています。これからも、入所者にとって一日一日、楽しく喜びの多い時間が過ごせるような支援を行い、その取り組みを情報発信してきたいと思えます。



平成 30 年度 転入者・新採用者の紹介

①氏名 ②職名 ③出身地 ④入所者・職員に向けて一言

① あおき かすお
青木 一雄



② 庶務係長
③ 高知県
④ 6年前まで会計係長で勤務していました。今度は庶務係長になりましたので、よろしくをお願いします。

① わだ かずや
和田 一也



② 薬剤科長
③ 大阪府
④ 赴任してまだまだわからない事が多いですが、精一杯頑張らせていただきます。

① つつい おさむ
筒井 修



② 臨床検査技師長
③ 高知県
④ 広島西医療センターから来ました。入所者の方に信頼される検査を提供できるように頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

① いしかわ しゅういち
石川 就一



② 栄養係長
③ 徳島県
④ 患者様のニーズに則り、安心・安全な食事の提供をさせていただきます。

① いけなが さちこ
池永 禎子



② 社会交流会館学芸員
③ 岐阜県
④ 大島の歴史と記憶・記録を伝えるべく奮闘中です。皆様の「声」が励みとなりますので、宜しくお願ひ致します。

① ほそたに みさ
細谷 美紗



② 栄養士
③ 徳島県
④ 不慣れな事ばかりでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯努力して参りますので、よろしくお願ひ致します。





① ^{まつした} ^{あいこ} 松下 愛子
 ② 総看護師長
 ③ 香川県
 ④ 皆様に「ほっ」としていただける真心のこもった看護・介護を提供したいと思っております。宜しくお願い致します。



① ^{やました} ^{みちこ} 山下 美智子
 ② 看護師長
 ③ 沖縄県
 ④ 病棟・治療棟の看護師長となりました。思いやりのあるやさしい看護を目指して、頑張りたいと思います。



① ^{ほそかわ} ^{かみひろ} 細川 和裕
 ② 看護師
 ③ 香川県
 ④ 長島愛生園より異動してきました。大島青松園の事を色々教えてください。



① ^{いわもと} ^{けい} 岩本 桂
 ② 船員
 ③ 福岡県
 ④ 船舶の安定・安全な運行に努めます。宜しくお願い申し上げます。



① ^{こやま} ^{まさき} 小山 雅貴
 ② 船員
 ③ 香川県
 ④ 新しく船舶職員として採用された小山雅貴です。船舶の安全運航に努めて行きたいです。



① ^{てらたけ} ^{りょうじ} 寺竹 亮二
 ② 事務助手
 ③ 東京都
 ④ 「ママチャリ」で桟橋まで3分の所に住んでいます。前職は病院の事務管理職をしていました。皆様よろしくお祈りします。



① ^{ほんだ} ^{きょうこ} 本多 京子
 ② 事務助手
 ③ 香川県
 ④ 今は皆様に助けて頂くばかりですが、お役に建てるよう頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



大島青松園来園方法

見学をご希望される方は、下記へご連絡、又はホームページをご覧ください。

連絡先：国立療養所大島青松園福祉室 電話（087）871-3231（内線 6464）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/osima



大島青松園への来園には、
官用船が利用できます。

船舶運航時刻

	大島港発	高松港着		高松港発	大島港着
1 便	8:40	9:00	1 便	9:10	9:30
2 便	10:30	10:50	2 便	11:15	11:35
3 便	13:25	13:45	3 便	14:00	14:20
4 便	15:00	15:20	4 便	15:30	15:50
5 便	16:30	16:50	5 便	17:00	17:20

－編集後記－



大島青松園では、「生活環境改善チーム」のメンバーが入所者の方の畑作業も支援しています。入所者の方と一緒に話しをしながら、お手伝いをしています。また、園内の使用していない畑を利用して「大島農園」でトマト、キュウリ、ゴーヤ、さつまいも等も植えています。車いすを使用している入所者さんも散歩を兼ねて、一緒に水やりをして、成長や収穫を楽しんでいます。

夏野菜が多く獲れる頃には、園内の行事で、入所者皆さんに振る舞えるほど実ることを今から待ち遠しく思っています。

【発行元】国立療養所大島青松園 住所：〒761-0198 高松市庵治町 6034-1 ☎（087）871-3131

【発行責任者】岡野美子（園長） 【企画・編集】広報委員会